



# 学校だより

西寺尾第二小学校  
11月  
令和5年10月25日

## 自分で考え、自分で決められるように

校長 宮崎 里子

さわやかな秋晴れが続き、ようやく過ごしやすくなりました。朝日は少しゆっくり昇り、夕方はつるべ落とし、あっという間に暗くなります。外で遊んでいる子どもたちの帰宅時間が気になる季節です。

去る10月14日(土)には西寺尾第二小オリンピックをご参観くださり、誠にありがとうございました。本校では「自己決定できる子ども」を育てていこうと教職員一同、教育課程を工夫することを大切にしています。オリンピックに於いては以下のように、子どもたちが主体的に考え、行動しました。

個別支援級：自分のめあてをそれぞれの児童が自分で明確にしてオリンピックに参加しました。学級内では「自分のがんばるところ」を発表し、みんなで励まし合いました。

1年生：演技の一部を児童が個々に考え、踊りました。

2年生：演技では自分のオリジナルのポーズを決める場所を作りました。また、学級ごとの振り付けの場面があり、各クラスで話し合っ内容を決めました。

3年生：短縄跳びで自分が挑戦する技、最後のポーズを子どもたちがそれぞれ考えました。

4年生：演技中の「飛びつき綱引き」のアナウンス、応援の旗の動き、綱引きの動きなど考えました。

5・6年生：ソーラン節発表前のパフォーマンスを自分たちで考えました。騎馬戦では作戦会議を開きました。ソーラン節は6年生が5年生に分かりやすく伝えました。

その他、ご覧いただいた通り、NOC 実行委員会の高学年児童は自分の係の役割を工夫し、進んで取り組む姿がありました。今年の応援団も、自分たちで考えた応援で盛り上がりました。オリンピックのアンケートでもたくさんの保護者の皆様より高学年児童の取組を評価していただいています。



本校の教職員は昨年度の生活・総合科の研修で、講師の先生より次の質問を受けました。

「1年生の子どもが『先生、朝顔に水やりをしていい?』と聞いてきたらどう答えますか?」

これに対して、私たちは日頃より「いいよ。」や「後でしたら?」等、指示を回答しがちです。しかし、講師の先生からは、「どうして、そうしたいの?」と聞くようにしていきましょう、とご教示いただきました。

以下 QA はこのように続いていくかもしれません。子ども「水やりをしたら、お花がきれいに咲くと思うから。」教師「そう、それはいい考えだね。」子ども「どのくらい、水をやったらいいんだろう?」教師「どうだろうね。調べてみたらいいかもしれないね。」



児童が主体的な学び方を身に付けるためには教師も保護者の皆様も「辛抱」が必要な場面があると思います。子どもが課題を解決しようとしている時、次の行動や答えを自分ではない他者に安易に決定してもらう習慣が身に付かぬよう、自分も含め、大人は気を付けていきたいものです。

来年のオリンピックではさらに児童の主体的育成に努めた内容を考えていきたいと思っています。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。